

## 第23回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

# 情報提供・相談支援部会

2024年11月21日（木） 13:00～15:00

オンライン開催

# 本日の内容

## 1. 開会の挨拶

## 2. 厚生労働省より挨拶

## 3. 本日の概要

## 4. 情報提供・相談支援部会のあり方について

-情報提供・相談支援部会運営委員会の発足/設置要領の変更について

-国協議会への提案結果

-ディスカッション

# 本日の内容

## 5. ピアサポーター養成と活躍の場創出に関する好事例共有

-基本計画・整備指針におけるピアサポーターの位置づけ

-山形県におけるピアサポーター養成と活躍の場の創出の取組

## 6. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業

## 7. その他

-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

## 8. 閉会の挨拶

-部会終了後-

希少がんセンターとがん相談支援センターの情報交換会（15：10～16：30）

# 本日の内容

1. 開会の挨拶

2. 厚生労働省より挨拶

3. 本日の概要

4. **情報提供・相談支援部会のあり方について**

**-情報提供・相談支援部会運営委員会の発足/設置要領の変更について**

**-国協議会への提案結果**

**-ディスカッション**

# 情報提供・相談支援部会のあり方について

- 情報提供・相談支援部会運営委員会の発足/設置要領の変更について
- 国協議会への提案結果

部会事務局

# 第22回情報提供・相談支援部会（2024年5月） ディスカッション時の部会委員・患者委員からのご意見

○**国協議会**（都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会＝親会）は、本来、協議・審議をする場であるが、**現状は各部会で話し合った内容の報告会。各部会からあがってきた案件を審議し、責任をもって行動を起こしていく場であるべき。**

○そのためにも、**情報提供・相談支援部会では、恒常的にワーキンググループを設け、各拠点病院からの問題点を随時受け付ける形にして、活性化していく必要がある。**

○現場から、がん相談支援センターのあり方を自律的に提案していくことが必要。**将来構想委員会のような会議体を設け、組織としての長期方針を議論している学会などを参考にするとよい。**

# 国協議会（2024年7月）時に 情報提供・相談支援部会から提案した内容

## ■ 今後の部会としての取組

- ・ **部会運営委員会の設置**：部会委員5～6名と事務局による部会運営委員会を設置し、現場感を共有しながら、部会での議事や検討事項を決定する。
- ・ **親会への提案機能**：部会では解決困難な課題（病院全体、院内医療者全体の協力がないと実現困難な内容）は国協議会検討議題として提案する。

## ■ 国協議会へのお願い

各部会から上げられた課題を協議し、対策を打ち出す協議体形式への移行を検討していただきたい。

→情報提供・相談支援部会運営委員会の設置については、特段ご意見なし

（部会からあがってきた解決困難な議題を議論する協議体形式への移行、については国協議会後に実施する事後アンケートの結果を踏まえての検討となった）

# 「情報提供・相談支援部会運営委員会」委員の募集

- 2024年9月上旬～末日にかけて、  
情報提供・相談支援部会委員メーリングリストで運営委員を募集した。
- 資料として、運営委員会素案と部会設置要領変更案をメール添付した。  
(スライド10-13で一部抜粋を提示)
- 最終的に、7名の方より自薦他薦をいただいた。(スライド14参照)



# 「情報提供・相談支援部会運営委員会」の素案

【目的】がん相談支援の現場や、患者・家族等が抱えている課題の解決を目的として、  
情報提供・相談支援部会の運営計画、取組、あり方を自律的に検討する。

## 【検討事項案】

○情報提供・相談支援部会として取り組むべき重点課題の  
洗い出し

（例：利用者調査、相談支援センター周知、相談記録、  
質の担保、DXへの取組やAI活用推進・・・）

○中長期計画と年間計画の策定

○年2回（春・秋）の情報提供・相談支援部会で取り上  
げる議題や論点の決定

○その他、委員の希望による検討事項

【頻度】年4回程度（原則、オンライン形式）

【構成人数】6名程度（管理者3名、実務者3名）

【任期】2年（1月～12月の年区切り）、再任は妨げない

【旅費謝金】なし

2025年	国協議会および 情報提供・相談支援部会	部会運営 委員会	討議予定内容
1月			年間計画策定
2月		○	概要・目的の説明 提案報告内容たたき台説明、討議
3月			
4月		○	意見集約、資料完成
5月	春の部会開催（集合）		
6月			親会報告内容のたたき台確認、 意見集約、資料完成
7月	親会開催（オンライン）		
8月		○	提案報告内容たたき台説明、討議
9月			
10月		○	意見集約、資料完成
11月	秋の部会開催 （オンライン）		
12月			

# 部会設置要領の変更（抜粋）

新	旧
<p>（設置） 第 1 条 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部組織として、情報提供・相談支援部会（以下、部会という）を設置する。部会は、がん患者や家族等に対する情報提供・相談支援の質向上、及び情報提供・相談支援体制の強化を目的とする。</p>	<p>（設置） 第 1 条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会（以下「部会」という。）を設置する。</p>

# 部会設置要領の変更（抜粋）

新	旧
<p>(検討事項)</p> <p>第 2 条 部会では、次の事項を実施する。</p> <p>(1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取組に関する現状把握と好事例・先駆的事例の共有</p> <p>(2) 情報提供・相談支援体制の強化を図る上で必要となる要件の整理と活動の推進（全国、地域ブロック、都道府県、施設等各レベルで整備すべき体制の検討、活動を推進する上で必要となるシステムや資材等の整備）</p> <p>(3) 現場レベルでは解決困難な課題の整理、改善策の取りまとめ、提案</p>	<p>(検討事項)</p> <p>第 2 条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。</p> <p>(1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。</p> <p>(2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理</p> <p>(3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と（連絡協議会を通じて発信することを想定した）提言に向けた素案の作成</p>

# 部会設置要領の変更（抜粋）

新	旧
<p>（部会運営委員会）</p> <p>第 4 条 部会長は、現場に資する部会の運営計画や取り組みを恒常的に検討する場として、部会に運営委員会を設け、運営委員を指名することができる。</p> <p>2 部会運営委員会の委員は6名程度で構成する。部会運営委員長は、部会長が務める。副委員長は委員の中から選出する。</p> <p>3 部会運営委員の任期は2年とし、再任を妨げないものとする。</p> <p>4 部会運営委員長及び副委員長は、検討した結果を部会に報告し、了承を得る。</p> <p>（開催形式）</p> <p>第 6 条 部会は、オンライン形式または現地開催のいずれかで行う。</p> <p>2 部会運営委員会、ワーキンググループは、原則としてオンライン形式で開催する。現地開催が不可欠な場合は、その実施を妨げないものとする。</p> <p>3 部会、及び部会運営委員会、ワーキンググループでは、必要に応じて有識者等に出席を求め、意見を聴取することができる。</p>	記載なし

# 「情報提供・相談支援部会運営委員会」委員

## ○管理者

都立駒込病院

山内 智博 委員

三重大学医学部附属病院

水野 聡朗 委員

琉球大学病院

増田 昌人 委員

## ○実務者

青森県立中央病院

坂本 周子 委員

福島県立医科大学附属病院

斎藤 慎也 委員

京都市立病院

松村 優子 委員

四国がんセンター

福島 美幸 委員

※委員の皆さまへ  
後ほどディスカッションの  
時間に一言コメントを  
いただければと思います。

委員長：松岡部会長 事務局：がん情報提供部

# 国協議会（2024年7月）時に 情報提供・相談支援部会から提案した内容

## ■ 今後の部会としての取組

- ・ **部会運営委員会の設置**：部会委員 5～6名と事務局による部会運営委員会を設置し、現場感を共有しながら、部会での議事や検討事項を決定する。
- ・ **親会への提案機能**：部会では**解決困難な課題（病院全体、院内医療者全体の協力がないと実現困難な内容）**は国協議会検討議題として提案する。

## ■ 国協議会へのお願い

各部会から上げられた課題を協議し、対策を打ち出す協議体形式への移行を検討していただきたい。

ここから後は、黄色マーカー部分の提案結果について

# 国協議会事後アンケート/ヒアリング結果 (国協議会委員の考え) の概要

○より大局的なことについての検討を優先すべき、との意向

- ・今後5年10年先のがん診療提供体制をどうしていくか
- ・特に高齢者のがん治療や社会的課題（認知症、独居）をどうしていくか
- ・各県のがん診療の実態把握

○情報提供・相談支援部会で解決困難な課題（病院全体の協力が必要な内容等）を、国協議会開催時の報告に含めることについては問題ない。

その際は課題解決のための具体的な提案まで示してほしい。

ただ、相談支援に関することは、情報提供・相談支援部会が責任をもって議論し、  
これまで通り直接厚労省に提案する自律的な運営をお願いしたい、との意向

# 国協議会事後アンケート 回答者属性

## 1. 回答者属性

①回答者数 36 名（国協議会委員数 102 名）

②都道府県 32 都道府県

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県
茨城県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県
富山県	福井県	山梨県	長野県	静岡県
三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県
奈良県	鳥取県	島根県	山口県	香川県
愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県
熊本県	鹿児島県			

## ④役職

役職	回答数
医師	30
事務方	6
合計	36



IV.国協議会にどのような場であることを期待しますか。特に重要と思われる項目を3つお選びください。

期待	回答数
整備指針等で新たに明記された分野の専門家からの情報提供を受けること	20
基本計画や整備指針に関する拠点病院の課題を集約すること	18
がん対策推進基本計画や整備指針に関する厚生労働省からの説明を受けること	16

全国の拠点病院の取組や先駆的活動を共有すること	16
部会から挙げられた課題を協議すること	12
国に対し整備指針や基本計画の改訂に向けた提言を行うこと	10
がん診療連携協議会の設置、運営に関して協議すること	6
基本計画や整備指針等の国の施策を評価すること	6
拠点病院間で役割分担すべき治療法の実施体制について協議すること	2
拠点病院の実績や活動状況を評価すること	2

情報提供、課題集約、好事例共有が特に重要  
と国協議会委員は考えている

IX.情報提供・相談支援部会の活動をより活性化させた方が良いかご意見を伺わせてください。

情報提供・相談支援部会 活性化	回答数
現状維持でいい	29
活性化が必要	5
わからない	2
その他	0
合計	36

X.情報提供・相談支援部会の活動を「活性化が必要」と思われる理由や、活性化するための方策について、ご意見があればご記載ください。

積極的な情報発信をお願いしたい

がんと診断された時ら、緩和ケアのハードルは医療提供する側のマンパワー不足や、患者側のハードルもあり、情報提供・相談支援する部門との密な協力が必要ではないかと思う。ACPの推進も含めた情報提供や相談支援が出来る体制が求められているのではないのでしょうか

現場の医療スタッフの意識向上が必要か

全国における地域間格差、各都道府県内における地域間格差について、実態の把握と対策が必要と思います

XIII.他に設置した方が望ましい部会があれば選択してください。

他に設置した方が望ましい部会	回答数
がん診療にかかわる部会（例：化学療法部会、放射線治療部会、外科治療部会等）	6
高齢者のがんにかかわる部会	5
希少がんにかかわる部会	5
地域連携にかかわる部	4
研修・教育にかかわる部会	3
AYA世代のがんにかかわる部会	3
医療の質に関する部会（例：QI部会、ベンチマーク部会、PDCA部会等）	2
難治がんにかかわる部会	1
がん看護にかかわる部会	0

## 高齢者のがんに関する 記載の多さが目立つ

XIV.上記で選択した部会が必要と考える理由や、具体的にどのような事項を検討したらよいと考えるかご記載ください。

Medical Oncologist, 腫瘍内科医の必要性
今後の急激な高齢化、少子化に備えるため
いろいろな意味での難治性がん（高度な治療を要する/発見時進行がんであることが多い/見つかっていても治療法がない等）については集約化して治療方針など決めて取り組む方が良い。但し、部会が多くなりすぎても時間もマンパワーもなくなる
高齢化社会で、高齢者の患者を個人（家族だけ）で支援できる時代では無くなってきている。社会で支援する体制に向かっており、在宅医療との連携や橋渡しを形成してゆく必要もあると推測する
地方における腫瘍内科医の確保について
目標を、無理なく数値で表現できるものに対しては、全国共通の数値を設定して改善を目指していく
高齢者の癌に適切に対応するためには、非高齢者よりも多くのリソースが必要になる場合が多いと思いますが、従来の体制では必ずしも難しくなっています。リソースには地域間格差も大きいです。どこで何が足りず、どうしていくべきか、どうしたらよいかの検討が必要と考えます
医療格差は是正されていないから
高齢者の急速な増加が課題になっている
当県のがん診療提供体制において、均てん化と集約化のバランスが十分でないことや、各拠点病院の質、人材や認定の教育体制が充分ではないという指摘があるため

# 国協議会関係者へのヒアリング結果（一部抜粋）

○ヒアリング対象：がん専門病院の院長・副院長レベルの医師、医療の質マネジメント室の室長等

- 今までは、整備指針に入れ込むことばかりを考えてきたが、今後は要件を削減するorメリハリをつけることを考えていく必要があるのではないか。
- 全国の拠点病院のデータを出してもらって、課題を洗い出し、そのために必要な人員や予算を算出し、議長（中釜理事長）が取りまとめて国に提出するというのを、1年に1テーマずつやっていくと、国協議会の目的が明確になり、活性化につながると思う。
- 高齢者の問題は、どの地域でも課題であり、扱うテーマとしては良いのではないかと。希少がん、ゲノム、AYAといった各論の検討はしかるべき部署、団体が進めているので、国協議会としてはCommon Cancerを扱うことが必要と考える。
- がん治療に特化した医療の質を評価することが必要と考える。国協議会は全国のがん拠点病院が集まる協議会なので、例えば高齢者について、まず出し合えるデータを集めて、リアルワールドデータに基づいた指標を作り上げていくと意義がある。
- 5年先、10年先を見据えて、今後のがん医療のあり方を考えていく必要がある。現状把握と同時に、がん診療における医療、人材ニーズの予測などをシミュレーションする必要がある。国には、5年先、10年先のがん診療をどう考えているのかを示してもらいたい。

**がん登録では把握しきれない、がん診療の実態に関する全国の拠点病院データを収集し、先々のがん医療のあり方を考えていくことが必要、との見解**

# 国協議会事後アンケート/ヒアリング結果をうけての方向性

親会委員は「各部会から上げられた個別課題の検討」は難しいが、  
「拠点病院の課題集約」は必要と考えている。

→情報提供・相談支援部会で解決困難な課題と解決策案の報告は行う。  
(提案先は今まで通り、厚労省)

# ディスカッション

○下記2点について、賛同いただけるか。

- 1) 案の通り、情報提供・相談支援部会運営委員会を発足する
- 2) 情報提供・相談支援部会レベルで解決困難な課題については、改善策（要望）を具体化し、国協議会にも課題や改善策を共有した上で、今まで通り厚労省に対し直接提案する方向とする

○今後、情報提供・相談支援部会で特に取り上げてほしいテーマはあるか。  
（ここでいただいた意見をもとに、運営委員会で検討します）

# 参考：第22回情報提供・相談支援部会 事前アンケート

## 4. 今後全国で足並みを揃えて取り組みたいこと、共通資材として作成したいこと

(n=44)

内容	回答数
フィードバック体制（利用者調査） <ul style="list-style-type: none"><li>・全国で統一し数年に1回程度の全国調査できるとよい</li><li>・オンラインで収集できる仕組みを用意して実施する体制づくり</li></ul>	20
がん相談支援センター広報用スライド	8
相談員同士の相談・協力の場づくり <ul style="list-style-type: none"><li>・研修企画者同士が相談できる体制づくり</li></ul>	4
相談支援・情報提供ツールの標準化 <ul style="list-style-type: none"><li>・がん相談支援センターで配架する冊子等の基準</li><li>・相談事例集</li></ul>	4
PDCA 実施状況チェックリストの更新 <ul style="list-style-type: none"><li>・PDCA チェックリストの簡素化と標準化</li></ul>	3
相談記録のための基本方式の改訂 <ul style="list-style-type: none"><li>・相談記録のための基本方式の修正・改訂</li></ul>	2
集計項目や基準の統一 <ul style="list-style-type: none"><li>・国が集計を求める相談内容や相談者の内訳のピックアップ</li><li>・特に相談件数の計上について</li></ul>	2
希少がんの情報提供	1
ピアサポーターの養成と活用	1

— 休憩中 —



# 本日の内容

## 5. ピアサポーター養成と活躍の場創出に関する好事例共有

-基本計画・整備指針におけるピアサポーターの位置づけ

-山形県におけるピアサポーター養成と活躍の場の創出の取組

## 6. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業

## 7. その他

-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

## 8. 閉会の挨拶

-部会終了後-

希少がんセンターとがん相談支援センターの情報交換会（15：10～16：30）

# がん対策におけるピア・サポートについて

令和6年11月21日（木）

第23回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会

厚生労働省

健康・生活衛生局 がん・疾病対策課

相談支援専門官 戸石 輝

# 第4期がん対策推進基本計画（令和5年3月28日閣議決定）概要

## 第1. 全体目標と分野別目標 / 第2. 分野別施策と個別目標

全体目標：「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」

### 「がん予防」分野の分野別目標

がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す

### 1. がん予防

- (1) がんの1次予防
  - ①生活習慣について
  - ②感染症対策について
- (2) がんの2次予防（がん検診）
  - ①受診率向上対策について
  - ②がん検診の精度管理等について
  - ③科学的根拠に基づくがん検診の実施について

### 「がん医療」分野の分野別目標

適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少・全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

### 2. がん医療

- (1) がん医療提供体制等
  - ①医療提供体制の均てん化・集約化について
  - ②がんゲノム医療について
  - ③手術療法・放射線療法・薬物療法について
  - ④チーム医療の推進について
  - ⑤がんのリハビリテーションについて
  - ⑥支持療法の推進について
  - ⑦がんと診断された時からの緩和ケアの推進について
  - ⑧妊孕性温存療法について
- (2) 希少がん及び難治性がん対策
- (3) 小児がん及びAYA世代のがん対策
- (4) 高齢者のがん対策
- (5) 新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装

### 「がんとの共生」分野の分野別目標

がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

### 3. がんとの共生

- (1) 相談支援及び情報提供
  - ①相談支援について
  - ②情報提供について
- (2) 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援
- (3) がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）
  - ①就労支援について
  - ②アピアランスケアについて
  - ③がん診断後の自殺対策について
  - ④その他の社会的な問題について
- (4) ライフステージに応じた療養環境への支援
  - ①小児・AYA世代について
  - ②高齢者について

### 4. これらを支える基盤

- (1) 全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進
- (2) 人材育成の強化
- (3) がん教育及びがんに関する知識の普及啓発
- (4) がん登録の利活用の推進
- (5) 患者・市民参画の推進
- (6) デジタル化の推進

## 第3. がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

1. 関係者等の連携協力の更なる強化
2. 感染症発生・まん延時や災害時等を見据えた対策
3. 都道府県による計画の策定
4. 国民の努力
5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
6. 目標の達成状況の把握
7. 基本計画の見直し

## 3. がんとの共生

### （1）相談支援及び情報提供

#### 【現状・課題】

- 多様なニーズに対応するため、がん相談支援センターの機能や対応範囲を検討し、地域の実情に応じた集約化や役割分担を行うことが必要である。
- 全ての患者や家族等、医療従事者等が、正しい情報にアクセスできる環境の整備が重要である。

#### 【取り組むべき施策】

- 多様化・複雑化する相談支援のニーズに対応できる質の高い相談支援体制の整備、オンラインの活用等による持続可能な相談支援体制の整備
- 拠点病院等と民間団体やピア・サポーター等との連携、ICTや患者団体、社会的人材リソース等を活用した相談支援の充実
- 要配慮者を含む患者や家族等のニーズや課題等の把握、「情報の均てん化」に向けた情報提供の在り方の検討

### （2）社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援

#### 【現状・課題】

- 拠点病院等と地域の医療機関が連携して、相談支援、緩和ケア、セカンドオピニオン等を推進し、患者や家族等を支援することが必要である。

#### 【取り組むべき施策】

- 都道府県がん診療連携協議会において、セカンドオピニオンや、緩和ケア及び在宅医療等に関する情報提供の在り方等の検討
- 地域包括ケアシステムの仕組みも踏まえ、拠点病院等を中心とした施設間の連携・調整を担う者の育成

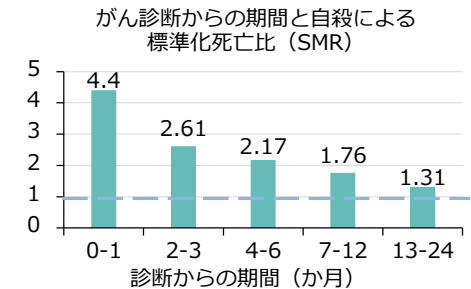
### （3）がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）

#### 【現状・課題】

- 働く世代のがん患者の離職防止や再就職への就労支援の充実が必要である。
- 治療に伴う外見変化に対する医療現場のサポートの重要性が認識されている。
- 医療従事者等による自殺リスクの高い患者への適切な支援が必要である。
- その他の社会的な問題として経済的課題など様々ながん医療への障壁が指摘されている。

#### 【取り組むべき施策】

- 現在の両立支援制度の効果及び課題の明確化、それを踏まえた施策の強化や医療機関等と産業保健との連携、普及啓発等に係る検討
- 様々な就労形態のがん患者の就労・離職の実態把握、それを踏まえた就労支援の提供体制の検討
- 拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築
- がん患者の診断後の自殺リスクや経済的課題等の把握、課題解決に向けた施策の検討



出典：Kurisu K, Fujimori M et al., Cancer Med 2022

### （4）ライフステージに応じた療養環境への支援

#### 【現状・課題】

- 成人でがんを発症した患者とニーズや課題が異なる小児・AYA世代のがん患者・経験者に対し、切れ目ない支援が必要である。
- 小児・AYA世代のがん患者の在宅での療養環境の整備が必要である。
- 高齢のがん患者に対し、身体的状況や社会的背景に合わせた配慮や、家族等に対する早期の情報提供・相談支援体制等が必要である。

#### 【取り組むべき施策】

- 療養中の教育支援体制の整備、遠隔教育の実態把握
- 長期フォローアップや晩期合併症等の支援体制等の構築、小児・AYA世代の療養環境の実態把握と体制整備に向けた関係省庁を連携した検討
- 高齢のがん患者の課題の把握、地域における療養の在り方や再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制の構築、意思決定支援等の取組の検討

# がん診療連携拠点病院における患者サロン

(がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針(令和4年8月1日)より抜粋)

## 患者サロンとは

医療機関や地域の集会場などで開かれる、患者や家族などが、がんのことを気軽に語り合う交流の場をいう。

(がん診療連携拠点病院の整備に関する指針(用語の解説))

### I がん診療連携拠点病院等の指定について

- 3 都道府県の全ての拠点病院等は、協働して都道府県協議会を設置し、都道府県拠点病院は中心的な役割を担うとともに、他の拠点病院等は都道府県協議会の運営に主体的に参画すること。また、拠点病院等の他、地域におけるがん医療を担う者、行政、患者団体等の関係団体にも積極的な関与を求めること。

〈都道府県協議会の主な役割〉

(中略)

- (2) 都道府県全体のがん医療等の質の向上のため、次に掲げる事項を行い、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すること。

(中略)

- ⑦ 当該都道府県内の医療機関における診療、緩和ケア外来、がん相談支援センター、セカンドオピニオン、患者サロン、患者支援団体、在宅医療等へのアクセスについて情報を集約し医療機関間で共有するとともに、冊子やホームページ等でわかりやすく広報すること。

### II 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

- 5 相談支援及び情報の収集提供

- (1) がん相談支援センター

- ⑧ がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けること。その際には、一定の研修を受けたピア・サポーターを活用する、もしくは十分な経験を持つ患者団体等と連携して実施するよう努めること。なお、オンライン環境でも開催できることが望ましい。

### 2 診療体制（1）診療機能 ④ 地域連携の推進体制

- ア がん患者の紹介、逆紹介に積極的に取り組むとともに、以下の体制を整備すること。
- i 緩和ケアの提供に関して、当該がん医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所等のマップやリストを作成する等、患者やその家族に対し常に地域の緩和ケア提供体制について情報提供できる体制を整備すること。
  - ii 希少がんに関して、専門家による適切な集学的治療が提供されるよう、他の拠点病院等及び地域の医療機関との連携及び情報提供ができる体制を整備すること。
  - iii 高齢のがん患者や障害を持つがん患者について、患者や家族の意思決定支援の体制を整え、地域の医療機関との連携等を図り総合的に支援すること。
  - iv 介護施設に入居する高齢者ががんと診断された場合に、介護施設等と治療・緩和ケア・看取り等において連携する体制を整備すること。
- イ 地域の医療機関の医師と診断及び治療に関する相互的な連携協力体制・教育体制を整備すること。
- ウ 当該がん医療圏内のがん診療に関する情報を集約し、当該がん医療圏内の医療機関やがん患者等に対し、情報提供を行うこと。
- エ がん患者に対して、周術期の口腔健康管理や、治療中の副作用・合併症対策、口腔リハビリテーションなど、必要に応じて院内又は地域の歯科医師と連携して対応すること。
- オ 地域連携時には、がん疼痛等の症状が十分に緩和された状態での退院に努め、退院後も在宅診療の主治医等の相談に対応するなど、院内での緩和ケアに関する治療が在宅診療でも継続して実施できる体制を整備すること。
- カ 退院支援に当たっては、主治医、緩和ケアチーム等の連携により療養場所等に関する意思決定支援を行うとともに、必要に応じて地域の在宅診療に携わる医師や訪問看護師等と退院前カンファレンスを実施すること。
- キ 当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討する場を年1回以上設けること。また、緩和ケアチームが地域の医療機関や在宅療養支援診療所等から定期的に連絡・相談を受ける体制を確保し、必要に応じて助言等を行っていること。
- ク **都道府県や地域の患者会等と連携を図り、患者会等の求めに応じてピア・サポートの質の向上に対する支援等に取り組むこと。**

# がん総合相談に携わる者に対する研修事業（平成30年度～）

※ピアサポート：がん患者・経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族などを支援すること。

## これまでの取組と現状

- 平成23～25年度に「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を実施し、ピア・サポーターの育成や患者サロン運営のための研修プログラムとテキストを作成。
- 令和元年度から、都道府県からのピアサポーターの養成研修や活用方法等に関する相談対応を実施。

## ピアサポートに関する指摘

- 「がん対策に関する行政評価・監視結果に基づく勧告」（平成28年9月・総務省）**  
ピアサポート自体は、基本的にはがん患者及びその家族の自主性や主体性を尊重すべきものであるが、それを重んじる余り、ピアサポート活動の普及が阻害されている側面もあるものと考えられる。  
厚生労働省は、がん患者及びその家族に対する相談支援等を推進する観点から、患者団体や関係学会の意見を踏まえつつ、ピアサポート研修の開催指針の策定や研修プログラムの改訂を検討するなどにより、ピアサポートを更に普及させるための措置を講ずること。
- 「がん診療提供体制のあり方に関する検討会における議論の整理」（平成28年10月）**  
患者活動を更に推進するために、ピアサポートに関する研修を実施する等、がん患者・経験者との協働を進め、ピアサポートや患者サロン等の取組を更に充実するよう努める必要がある。

## 事業概要

- 患者団体及び関係学会と連携し、研修プログラムを改訂するとともに、がん患者・経験者、がん診療連携拠点病院の医療従事者、都道府県担当者に対して、ピアサポートや患者サロンに関する研修を実施する。

(参考)

がん総合相談に携わる者に対する研修事業HP：<http://www.peer-spt.org/>

研修会案内HP：<https://www.peer-spt.org/info/>



## 都道府県健康対策推進事業について

がん対策を総合的かつ計画的に推進するため、がん対策基本法に基づき都道府県が策定する「都道府県がん対策推進計画」、がん登録法に定める都道府県による届出等、健康増進法に基づき都道府県が策定する「都道府県健康増進計画」等に基づき、都道府県が地域の実情等を反映させた各種施策を着実に実施するために必要な経費を補助する。

事業名	事業内容
がん検診の受診促進等に資する事業	市町村や企業等で行われるがん検診での受診促進、受診率向上を目的とした啓発等の事業を実施する。
がん医療提供体制等の促進等に資する事業	がん患者に対する適切ながん医療の提供が図られることを目的として、がん対策推進計画等の内容を踏まえた、がん医療提供体制の検討、整備及び支援等の事業を実施する。
がん緩和ケアの推進に資する事業	がん患者・家族に対する緩和ケアの推進を図るため、「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」等を踏まえた医師その他の医療従事者に対する緩和ケア研修会の実施及び緩和ケアの実施体制の整備などを目的とした事業を実施する。
がん登録の推進に資する事業	がん登録の推進を目的とした、がん登録法に定める都道府県が行う事務等のがん登録法の趣旨を踏まえた事業を実施する。
がんに関する総合的な相談等の実施に資する事業	がん患者及び家族のニーズに即した適切な相談支援が行われることを目的とした、がん患者等に対する総合的な相談支援（ピア・サポートを含む）、研修等に関する事業を実施する。
がん情報の提供に資する事業	がんへの正しい理解及びがん医療への適切な受診・協力等が得られることを目的として、がん患者、家族、地域住民又は児童生徒等に対するがんの知識・情報等の提供、普及啓発等に関する事業を実施する。



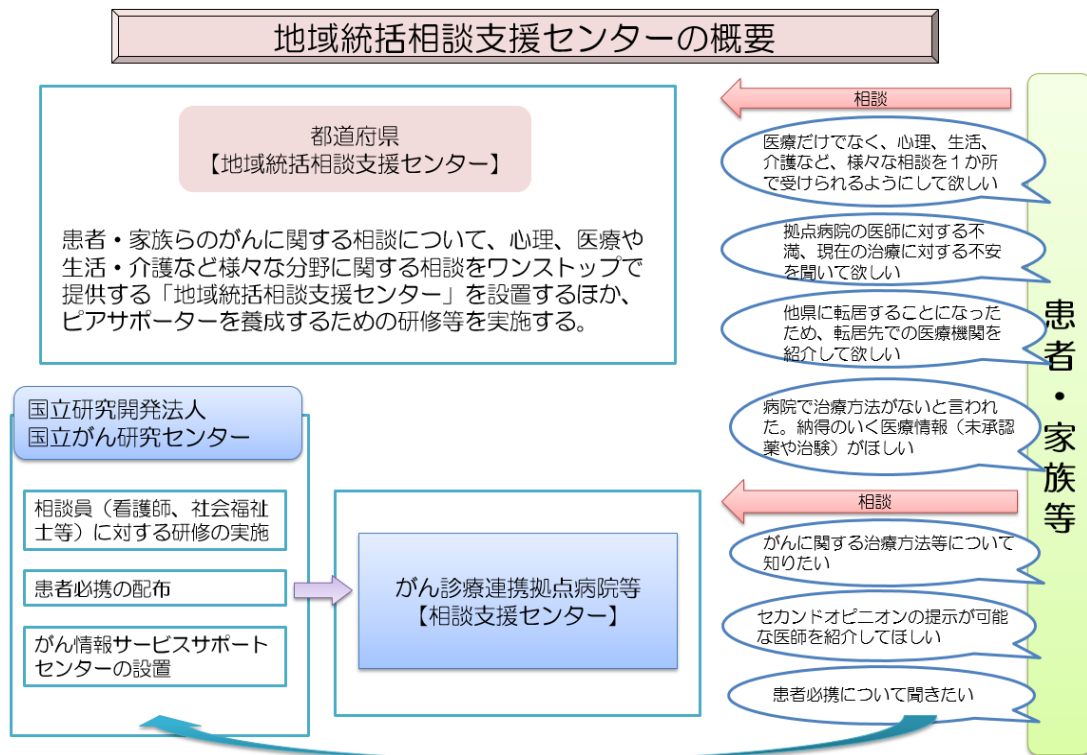
# 地域統括相談支援センター

患者・家族らのがんに関する相談について、心理、医療や生活・介護など様々な分野に関する相談をワンストップで提供する体制を支援するもの。15道府県で設置（令和5年5月現在）。

都道府県健康対策推進事業（がんに関する総合的な相談等の実施に資する事業）

【補助先】 都道府県      【補助率】 1/2

【事業内容】 ピアサポーターなど様々な分野に関する相談に対応するための相談員の確保及びその研修、相談内容の分析、がん患者サロンの整備等



地域統括相談支援センター等で相談を受ける相談員（ピアサポーター）を養成するために必要なプログラム



厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業 ピアサポーター養成テキスト（日本サイコオンコロジー学会委託）

ホームページ : <http://www.peer-spt.org/>

## ご清聴ありがとうございました

<ご参考>

厚生労働省 がん対策情報

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/gan/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/gan/index.html)

ひと、暮らし、みらいのために



厚生労働省  
Ministry of Health, Labour and Welfare

# 本日の内容

## 5. ピアサポーター養成と活躍の場創出に関する好事例共有

-基本計画・整備指針におけるピアサポーターの位置づけ

**-山形県におけるピアサポーター養成と活躍の場の創出の取組**

## 6. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業

## 7. その他

-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

## 8. 閉会の挨拶

-部会終了後-

希少がんセンターとがん相談支援センターの情報交換会（15：10～16：30）

# 山形県におけるピア・サポーター 養成と活躍の場の創出の取組み

2024年8月誕生！  
やまがたピア・サポーター  
応援キャラクター  
『ピアにゃん』



公益財団法人 やまがた健康推進機構  
山形県がん総合相談支援センター  
松田 芳美



# 山形県がん総合相談支援センターの成り立ち

2016年12月

「山形県誰もががんと向き合いがんを知り、県民みんなががんの克服を目指す条例」制定



2017年度

がんを知り、がんと向き合いがんになっても安心して暮らせる、社会の実現を目指してみんなで取り組む「がん対策県民運動」を展開



2017年10月

県の委託受け、やまがた健康推進機構山形検診センター内に“山形県がん総合相談支援センター”開設



看板交付式  
県知事から所長へ引渡し

委託

【がん対策担当:がん診療連携協議会事務局】

山形県がん総合相談支援センター  
県内5か所の検診センター内に窓口設置

がん診療連携拠点病院等がん相談支援センター

☎平日13時~16時  
+ 第1土曜10時~12時  
兼任3名

平日13時~16時  
兼任3名

☎平日10時~16時  
+ 第1土曜10時~12時  
専任2名兼任2名他

平日13時~16時  
兼任2名

平日13時~16時  
兼任1名

日本海総合病院  
がん相談支援センター

鶴岡市立荘内病院  
がん相談支援センター

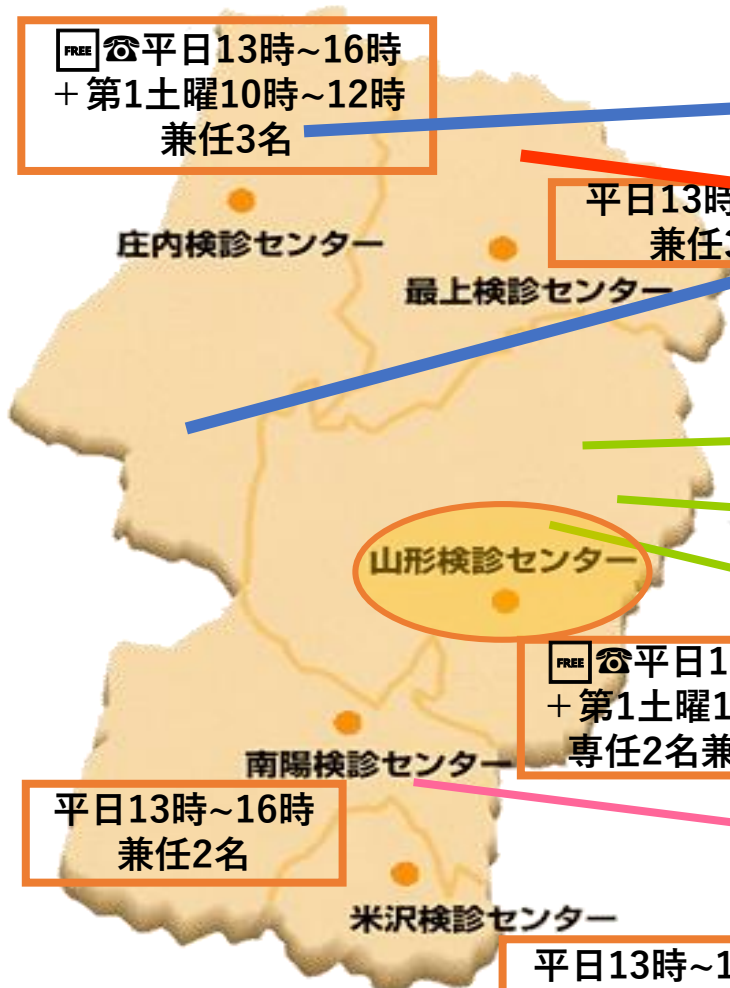
山形県立新庄病院  
がん相談支援センター

山形県立中央病院  
がん相談支援センター

山形市立病院済生館  
がん相談支援センター

山形大学医学部附属病院  
がん相談支援センター

公立置賜総合病院  
がん相談支援センター



# 山形県がん総合相談支援センター委託事業



がん相談窓口の設置

普及啓発、広報活動

**ピア・サポーターの養成および活動支援**

# 令和6年度山形県がん総合相談支援センター運営事業基本仕様書 (3.委託業務(2)ピアサポーター養成および活動支援より抜粋)

ア令和2年度厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」において作成されたテキスト等を活用し、ピアサポーターの養成を行うものとする。

イ医療機関や患者会等と連携し、ピアサポーターの養成を行うものとする。

ウ病院や病院以外の場所において、がん患者やその家族等の交流の場としてがん患者サロンを設け、定期的を開催するものとする。



# 「やまがたピア・サポート」 私たちがめざす4つの目標

- ✿ みんなで「寄り添い助け合うやまがた」をつくりましょう
- ✿ ピア同士のネットワークを広げていきましょう
- ✿ 正しい知識と情報を持ちましょう
- ✿ がん検診の大切さを伝えていきましょう



# 目次

1. ピア・サポーター—養成と継続研修
2. ピア・サポーター—活動の場の創出と活動支援
3. 他団体等との連携
4. ピア・サポート事業の振り返りと今後の課題
5. ピア活動の充実・拡大に向けた提案

# 1. ピア・サポーター養成と継続研修

- 1) 基礎研修：ピア・サポーター養成講座
- 2) 継続研修：研修① 研修② 現地研修
- 3) 応用研修：がんサロン企画・運営スキル習得支援プログラム

# ピア・サポーター養成と継続研修の全体像

注)研修受講に関わらず、既に自主的にがんサロン開催、患者会立ち上げているピアも在籍

自律して各地元でがんサロンを開催

活躍期待

- \* 拠点病院がんサロンに派遣(原則2名ずつ)  
〈初回サブファシリ、2回目以降ファシリとして〉
- \* がん相談支援(希望の相談者がいた場合)

活躍

\* 随時、各種オブザーバー、がん教育(県主催研修以後)、イベント参加、広報活動など依頼

活躍

**【基礎研修】必須**  
ピア・サポーター養成講座(1日)

**【継続研修】初回のみ必須**  
(年間) \*以降任意

研修①講義(コミュニケーション他)+随時研修情報提供(がん教育、書籍配布他)  
研修②交流研修(ピア活動報告、拠点病院等と意見交換、G.W.)  
現地研修:県外等がんサロン視察(該当年度の養成講座修了者優先)  
がんサロンクローバー1回以上参加(ファシリ見学/語る聴く体験)

**【応用研修】任意(公募)**

がんサロン企画・運営  
スキル習得支援プログラム

\*2022年~開講

# 1) 基礎研修：ピア・サポーター養成講座

ア 令和2年度厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」において作成されたテキスト等を活用し、ピア・サポーターの養成を行うものとする。

令和6年度  
ピア・サポーター養成講座  
受講者募集

参加費 無料

あなたの経験を活かしてみませんか？

◆開催について◆

日時	令和6年8月25日(日) 9:30~16:00	日時	令和6年9月8日(日) 9:30~16:00
場所	山形検診センター (山形市蔵王成沢字向久保田 2220番地)	場所	鳳上検診センター (新庄市大手町2番22号)
定員	各10名(事前申し込み必要) ※定員になり次第、締め切りとさせていただきます	対象	がん体験者とそのご家族

～ピア・サポーターについて～

★ピア・サポートとは★  
がん治療の経験を活かし、ピア(仲間)としてがん患者さんやそのご家族を支援することをピア・サポートといえます。

★活動内容★  
がん患者さんやそのご家族の不安や悩みを聴いたり、一緒に考えたりします。ご自身の経験を話すこともあります。

★活動場所★  
がんサロンや、がん相談などで活動します。

★ピア・サポーターとは★  
ピア・サポートを行う人をピア・サポーターといえます。

★令和5年度受講者の声★  
「癌役サポーターさんの声聞いて、大変勉強になりました。」  
「自身のがん体験が誰かの役に立つような活動を続けていけたらと思います。」

ご参加お待ちしております！

お申し込みはwebまたはお電話で!!  
右のホームページの申込フォームから送信していただくか、山形検診センターへお電話でお申し込みください。

【お問い合わせ】 公益財団法人 やまがた健康推進機構 山形県がん総合相談支援センター (山形検診センター内)  
☎023-688-6511 担当 佐竹・三浦

# 実施方法

項目	内容
対象者	がん体験者と家族
募集方法	ポスター配布 県内がん診療連携拠点病院等がん相談支援センター 山形県薬剤師会(研修開催市町村の薬局等)、当該医師会 県内患者会等 登録がんピア・サポーター各位 他 ホームページ 市町報(研修開催市町村および近隣市町村) 他
申し込み方法	申込フォーム入力および電話 (参加費無料、弁当助成あり)
講師	2017年(初回)~2020年:外部講師依頼 2021年(休講) : 養成講座成果の分析と再構成 2022年以降 : 自施設がん看護専門看護師 + 先輩ピアサポーター(2~3名)

# 2022年以降の養成講座の内容の一部および、各課題と改善点

時間	内容	課題と改善点
9:40-9:50	山形県におけるピア・サポーター養成および活動支援事業	<b>2021年見直した結果</b>
9:50-12:00 (適時休憩)	<p>〈第一部〉 講義 *アイスブレイキング</p> <p><b>I.ピア・サポーターとは</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ピア・サポートとは/意義</li> <li>2.ピア・サポーターは「体験の専門家」</li> <li>3.ピア・サポーターと医療従事者の役割</li> <li>4.ピア・サポート活動で大切なバウンダリー</li> </ol> <p><b>II.ピア・サポーターのコミュニケーション</b>(簡単な演習含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.体験者同士コミュニケーションの必要性</li> <li>2.自然な(良質な)コミュニケーション</li> <li>3.あなたのパーソナルスペースを知ろう</li> </ol> <p><b>III.がんサロン -グループでのピア・サポート-</b> (演習含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.がんサロンの参加者</li> <li>2.参加・不参加のルール他、がんサロンにおけるピア活動、振り返りなど</li> </ol>	<p><b>[課題]</b>養成講座(+継続研修)アンケートの一部  「傾聴が大事なので自分の話はせず聴くことに徹したい」  「進行に自信がない」  「サロンをまとめられない」  <b>・傾聴=黙って聴くこと</b>  <b>・ピア=進行・まとめ役</b>  と解釈⇒活動に反映</p> <p><b>[改善点]</b>  丁寧な言葉のキャッチボール=【傾聴・共感】へのプロセスを強調し、演習を繰り返し実施</p>
13:00-15:45	<p>〈第二部〉 グループワーク(5名+スタッフ、先輩ピア/G)</p> <p>I.先輩ピア・サポーターのお話し</p> <p>II.ファシリテーターとは(基本的な内容)</p> <p>III.模擬がんサロン①：がんサロン体験/ファシリテートされる体験  模擬がんサロン②：よくある事例(3事例)を体験/ファシリテーター体験</p>	<p><b>[課題1]</b> サロン参加経験のある受講者が少ない</p> <p><b>[課題2]</b> 進行役への不安が強く活動に消極的</p> <p><b>[改善点]</b> ロールプレイを増やし語る、聴くことの効果を実感してもらう</p>

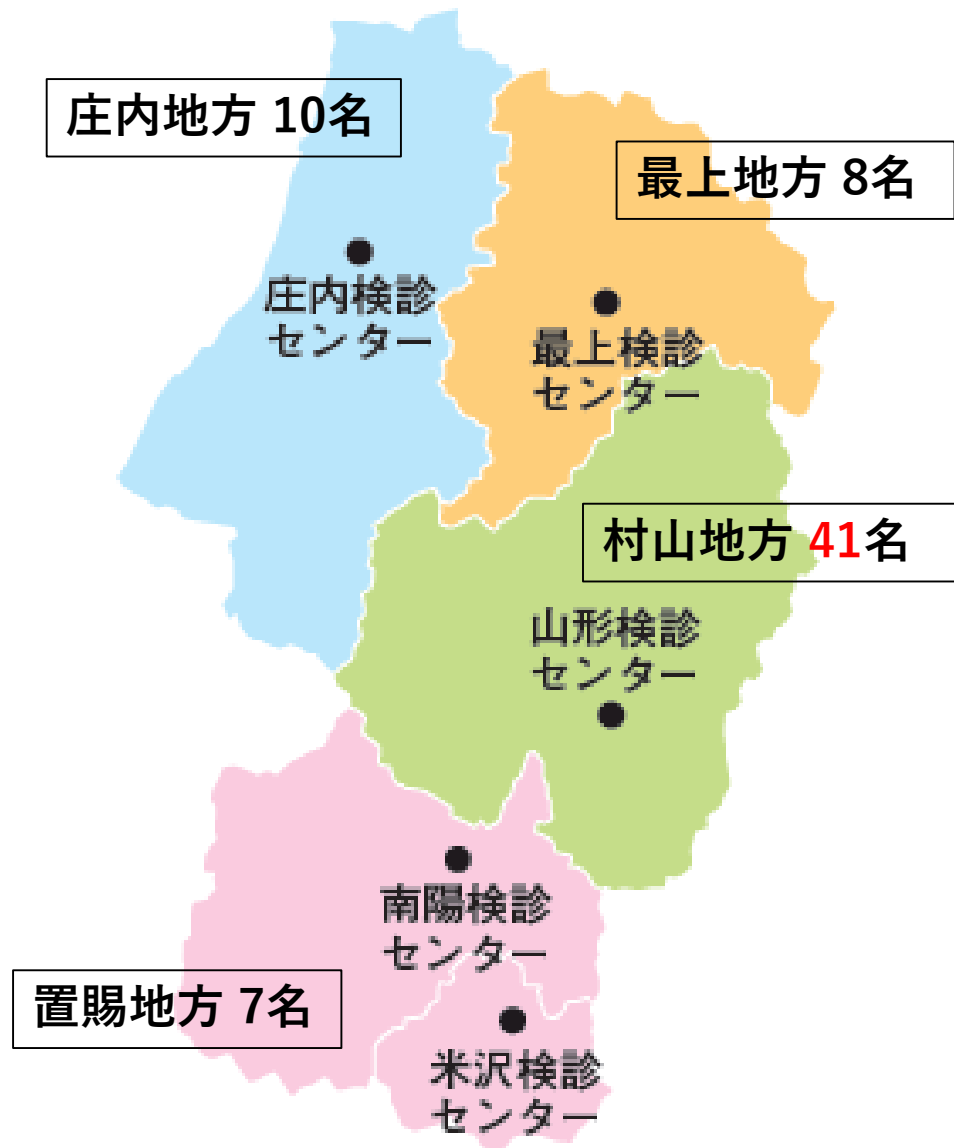


# ピア・サポーター養成講座修了者数と現在の登録者数(2024.11現在)

開催年月	開催市	修了者	登録者(非活動)	退会者	主な退会理由
2017年11月	山形市	17名	8名(0)	9名	<b>毎年度末継続活動意向調査</b> ＊非活動とは、研修等案内希望・活動要相談 ＊以下、直接語られた退会理由 ・熱心なピアからの言葉で自分には無理だと感じた ・養成講座を受け、場違いだったと感じた ・講師の話に感動したが自分にはできない ・仕事や家庭のことが忙しく研修や活動に参加できない ・再発・転移治療(他界2名含む)
2018年 1月	山形市	16名	5名(3)	11名	
2018年 6月	山形市	11名	6名(3)	5名	
2019年 9月	米沢市	11名	2名(0)	9名	
2019年 9月	酒田市	10名	5名(3)	5名	
2020年 8月	南陽市	10名	4名(2)	6名	
2022年 8月	山形市	6名	6名(2)	0	
2023年 8月	山形市	10名	10名(0)	0	
2023年 9月	酒田市	6名	4名(0)	2名	他界2名
2024年 8月	山形市	11名	11名(0)	0	
2024年 9月	最上市	5名	5名(0)	0	
	<b>総数</b>	<b>113名</b>	<b>66名(13)</b>	<b>47名</b>	



# 登録ピア・サポーター66名の背景



性別	人数
女	57名
男	9名
年代	人数
20代	1名
30代	0名
40代	8名
50代	26名
60代	15名
70代	14名
80代	2名
就労	人数
有	44名
無	22名

立場(複数回答)	人数
体験者	53名
家族/遺族	19名
医療職(単独はなし)	11名
非がん(ストマあり)	2名
がん種(複数回答)	人数
乳がん	27名
腎臓/膀胱/尿管がん	8名
子宮(頸/体/内膜)がん	7名
白血病/悪性リンパ腫	5名
卵巣がん	4名
甲状腺がん	3名
胃/食道/十二指腸がん	3名
肺がん	2名
舌/口腔がん	2名
膵臓がん/絨毛がん	各1名

## 2) 継続研修

研修①講演会：コミュニケーション・緩和ケア

研修②交流会：グループワーク他

現地研修：がんサロン視察/がんサロンクローバー参加

**\* ピア・サポート活動(サロン派遣、相談支援)の要件必須**

イ 医療機関や患者会等と連携し、ピア・サポーターの養成を行うものとする。



# 実施方法：研修①②

項目	内容
研修の目的	①ピア・サポーターの活動に必要なコミュニケーションスキルの向上 ②ピア・サポーター間および、拠点病院等の関係機関や職種との交流を通じた相互支援
対象者	ピア・サポーター養成講座を終了した登録ピア・サポーター（登録後初回必須）
参加確認	年度初めに年間計画を郵送し、適時返信ハガキで確認(必要時電話、メール確認)
研修①の方法	<p>〈講義60分＋質疑応答〉</p> <p>講師：ピア・サポーターの希望聴取、希望の講演に応じた講師の選定と依頼            （適時、がん情報センター、学会等に紹介を依頼の他、ピア・サポーター希望聴取）</p> <p>例）緩和ケアについて：県内の緩和ケア専門医、認定看護師、学会等から派遣など            ピア・サポーター活動：日本サイコオンコロジー学会から派遣、他県ピア活動など            コミュニケーション・傾聴：県内臨床宗教家、精神看護CNS、学会等から派遣など</p> <p>〈ピアとスタッフの交流会〉 適時、軽食、菓子などをとりながら語り合い</p>
研修②の方法	<p>〈講話など〉</p> <p>例）県内の拠点病院がん相談員(ピア派遣を通してピアへのメッセージ)            山形県健康福祉部等(県のがん対策取り組み、ピアの活用方針など)            ピア・サポーターの活動報告</p> <p>〈交流会〉 G.W.(難しいと感じた場面の語り合い、情報交換や活動報告)、昼食会 など</p>

# 実施方法：現地研修

項目	内容
研修の目的	①他県等のピア・サポーターが運営するがんサロンに参加しピア活動を理解する ②がんサロンクローバー(当センター主催)に参加し、体験の語り、傾聴、進行を体験
対象者	ピア・サポーター養成講座を終了した登録ピア・サポーター
参加確認	年度初めに年間計画を郵送し、適時返信ハガキで確認(必要時電話、メール確認)
がんサロン視察	<ul style="list-style-type: none"><li>* 参加費無料、交通費・昼食費支給</li><li>* 主に当該年度の養成講座修了者20名に公募。希望人数に合わせて視察先を調整</li><li>* 様々ながんサロンの形態や運営を視察し、個々の活動やピア像に役立てる 〈ご協力がんサロン様〉</li></ul> 福島県：NPO法人がんピアネットふくしま(福島県立医科大学附属病院内サロン) 宮城県：日和山カフェ(石巻市) 山形県：慶應義塾大学先端生命科学研究所 からだ館
がんサロンクローバー参加	<ul style="list-style-type: none"><li>* ピア・サポーター養成講座終了後の活動の場がない背景から誕生</li><li>* 開設当初：5月～12月の<b>第3木曜日</b>13:30-15:00 2023年～：5月～12月の<b>22日</b>13:30～15:00(平日が難しいピアおよび参加者に対応)</li></ul> <b>課題</b> ：進行役をストレスに感じる、 <u>グループを仕切ることに集中し体験が語れない</u> <b>修正</b> ：進行役はスタッフが担い、ピアは参加者ととともに、体験を〈語る〉〈聴く〉が自然に行え、 <u>相互支援を実感できるサロン</u> として2024年～実施中。

### 3) 応用研修

## がんサロン企画・運営スキル習得支援プログラム



# 実施方法

項目	内容
研修の目的	ピア・サポーターが居住する地域で、自立してがんサロンを立ち上げ運営していくために必要なスキルを学ぶ
概要	がんサロンの企画、広報、運営、評価までの一連の流れを体験的に学習し、年限内に1回がんサロンを開催するまでを、がん専門相談員の支援を受けながら実践する公募制の研修
対象	①ピア・サポーター養成講座を修了し、研修①②を2回以上参加、かつ③がんサロン(クローバーおよび派遣)で活動経験が1回以上あり、④申請受諾された者 *1グループ：1~5人
研修期間	6か月間(内容により延長可)
予算(助成)	1グループにつき1,5000円(会場費、広報・通信費、菓子、飲み物代として)
プログラムの流れ	①公募→②選定→③担当相談員決定→④採択通知→⑤初回打ち合わせ(2回目以降は研修者が計画的に)→⑥企画書作成→⑦準備・広報→⑧がんサロン開催・運営→⑨研修の振り返り→⑩研修修了認定
認定基準と認定	定められた研修期間にがんサロン開催までを実施することを認定基準とする。 認定者に対し、山形県がん総合相談支援センター所長の押印がある終了証を発行。

# 2022年度がんサロン企画・運営スキル習得支援プログラム過程

## 公募・申請

- ・ 2021年11月：申請要項配布説明、公募開始
- ・ 2022年 4月：2グループから申請あり受理

## 支援・実践

- ・ 素案～企画書(様式あり)作成まで複数回相談対応
- ・ 会場予約、チラシ作成等の準備～運営支援
- ・ がんサロン3回開催

## 振り返り

- ・ がんサロン参加者の感想を基に実践の振り返り
- ・ 研修受講者とプログラムに関する意見交換

【様式1 応募申請用紙】  
 (郵送・FAX 共通書式：山形県がん総合相談支援センター宛 FAX023-688-2766)

がんサロン「クローバー」企画運営申込書

申請日：令和 年 月 日

\*太枠の中を記載してください。

申請者氏名(代表)	連絡先①	Tel:
共同企画者氏名①	連絡先②	Tel:
共同企画者氏名②	メールアドレス	
共同企画者氏名③	連絡方法に関して希望があれば記載してください	
共同企画者氏名④		

企画案  
 (思い描いている構  
 想を簡単に)

備考欄(伝えておくべき事項等がありましたらお書きください。)  
 例)開催日を○月頃に考えている・・・など。

※以下、事務局記載欄  
 受付No.

申請書受取日	令和 年 月 日
申請書受理連絡	済 ・ 未 (事由: )
企画運営支援担当者	
特記事項	

・ 申請者は1名～5名/G  
 ・ 初めから5名/Gの方、1名で申し込み、ピア仲間を増やす方もいる。

・ 相談員2名が担当  
 ・ 研修者主体で話し合い日程段取り・議事録作成  
 ・ 計画書作成  
 ・ 受講者の背景に合わせた指導方法思案

【様式2 がんサロン企画書】

がんサロン「クローバー」企画書

受付No. 企画運営支援担当者 作成日：令和 年 月 日

グループ名			
メンバー氏名	①(代表)	②	③
	④	⑤	
開催目的			
開催日時	令和 年 月 日 ( ) 時 分 ～ 時 分	開催場所	
対象者/人数			
プログラムの形態	(個別サポート、サポートグループなど、グループ構成人数など具体的内容も含む)		
がんサロン評価(アンケート等)			
タイムスケジュール			
広報の方法	予算案(概算でよい)		
役割分担		当日までのスケジュール	
役割	担当者氏名	月日	内容
ファシリテーター			
サブファシリテーター			
広報(チラシ作成他)			
受付・参加者案内			
会計(事務局と連携)			
会場設営・片付け			
その他			

# がんサロン企画・運営スキル習得支援プログラム修了者の感想

## 1. ピア・サポーターの役割としての気づきなど

- ・立場が違う参加者に戸惑い、自分自身のことを語りすぎてしまった
- ・参加者の悩みの多様性への課題を感じた
- ・渦中を過ぎてしまった自分と渦中にある人とのギャップを感じた
- ・語りが途中になってしまった参加者の話を聴いてあげられず後悔
- ・自分の経験の話し方や余命の話への返し方、話題の振り方に難しさを感じ勉強になった

## 2. ピア・サポーター同士のつながり

- ・途中参加者に中断されファシリテートに難渋したが他メンバーに助けられた
- ・メンバーの体験が参加者との語り合いを円滑にした

## 3. がんサロン企画・運営スキル習得支援プログラムに対して

- ・いずれは自分でサロンをしたい気持ちがあったので、後押ししてもらえたと感じる
- ・人数を集めることばかり考えていたが、じっくり話を聴くにはちょうど良い人数であり大事な役割だと感じた
- ・これまでは何か役に立てたらという思いで気軽に参加していたが、大事なところに関わっているのだと実感
- ・サロンを運用するにつれ、ファシリテーターとしての実践を重ね、スキルを上げたい



## 2. ピア・サポーター活動の場の創出と活動支援

ウ 病院や病院以外の場所において、がん患者やその家族等の交流の場としてがん患者サロンを設け、定期的  
に開催するものとする。

1) ピア・サポーター活動の場の創出

2) ピア・サポーターの活動支援

がんサロン



1対1の対話



アドバイザー



がん教育



# 1) ピア・サポーター活動の場の創出

## ✿ 山形県がん総合相談支援センター内にかんサロンクローバー設置

ピア全員が平等に活動できる場の工夫（サロンの場所、日程、内容など）

## ✿ 県内がん診療連携拠点病院等のがんサロン派遣事業の展開（報酬無）

派遣依頼体制の整備、活動支援、依頼元との調整、派遣先拡大など

## ✿ 県内関連会議等へのアドバイザー派遣への協力

PEACE研修での講演、当センターアドバイザーリーボードなど

## ✿ がん教育外部講師派遣の窓口

がん教育研修受講案内と支援、外部講師依頼窓口として調整

## ✿ 相談者との対話依頼（報酬無）（COVID-19でがんサロン縮小がきっかけ）

「同じ病気（治療）の人と話したい」相談時にピアとの対話を提案

要望の背景に近いピア、時間を調整しオンラインまた対面（がん専門相談員同席）



# 2024年度の活動状況（予定含む）

事業	項目	依頼人数
アドバイザー 講師依頼	山形県がん診療連携協議会部会オブザーバー	2名
	当センターアドバイザーボード	2名(予定)
	山形県内中学校がん教育外部講師	1名(見学1名)
	研修②活動報告(会社内での活動、病院内サロン活動)	2名(予定)
がんサロン 派遣	山形県立中央病院 がんサロンひだまりカフェ(毎月) (進行希望、2名ずつ派遣依頼)	各2名 + 参加希望者(0~2名)
	置賜総合病院 がんサロン (8月、11月、2月) (進行希望、2名ずつ派遣依頼)	各2名
	山形県立新庄病院 がんサロン晴れ晴れ(5月、10月) (ピア・サポーターが主体で相談員と協力運営)	各4名固定 + 参加希望1~3名
がんサロン クローバー	山形県がん総合相談支援センター主催(5月~12月) *ピアの要望受けサロン企画：“遺族”“男性限定”や、県内各地域出張 開催場所：県内5か所の検診センター巡回、出張サロン(1回)	各2名 + 参加希望者0~3名

# ピア・サポーター派遣の手順と当日ピア・サポーター支援

がん診療連携拠点病院等  
がん相談員から依頼

派遣元の依頼内容に応じ  
ピア・サポーター調整

がんサロン後の手続き

実施記録  
進行担当ピア

実施報告書  
派遣元相談員

様式第1号

令和 年 月 日

公益財団法人やまがた健康推進機構  
山形県がん総合相談支援センター長 殿

病院名

令和6年度 院内がんサロン実施計画書

このことについて、下記のとおり計画しましたので、提出します。

開催日	
開催時間	
開催場所	
ピア・サポーター	
担当者職氏名	
電話番号	
備考	

当日

がんサロン開始30分前集合  
運営打ち合わせ  
\* 依頼元相談員、ピア  
(当センター相談員同席)

がんサロン開始

がんサロン後30分程度  
振り返り  
\* 依頼元相談員、ピア  
(当センター相談員同席)

様式第2号

令和6年度 院内がんサロン  
実施記録

ピア・サポーター  
進行担当氏名 \_\_\_\_\_  
サブ担当氏名 \_\_\_\_\_

日 時	令和 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分
会 場	
一 般	名 (がん患者・家族)
参 加 者	ピア・サポーター 名
	スタッフ 名
内 容	

様式第3号

令和 年 月 日

公益財団法人やまがた健康推進機構  
山形県がん総合相談支援センター長 殿

病院名 \_\_\_\_\_

令和6年度 院内がんサロン実施報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので、報告します。

記

開催日	
開催時間	
開催場所	
参加者数	人
開催して 気付いた点	

派遣事業実施報告書作成  
決済

## がんサロン後の振り返り



※写真使用許諾済

## 〔当センター相談員の役割〕

1. 派遣ピア・サポーターの支援
  - ① 初派遣ピアと依頼元相談員間の橋渡し
  - ② 派遣ピアの活動見守り
    - ・がんサロンの少し外の立ち位置
    - ・困ったときのサポート
    - ・必要時依頼元相談員と協力
  - ③ 振り返りの場での肯定的なフィードバック
    - ・建設的な語り合い促進
    - ・後悔やモヤモヤの解消 など
2. 派遣元相談員との連携
  - ① ピア・サポーターの活動理解促進
  - ② ピアの活動経験値等の共有
  - ③ 次回サロン派遣に向けての調整等

## 2) ピア・サポーター活動支援

### 相談

- ・活動上の悩みや不安などに対する相談支援(サロン振り返りや研修①②などでの交流含む)
- ・活動拡大や維持などにおける助言と支援など

### 発信 (広報/提供)

- ・ピア・サポート事業、ピア・サポーター活動(自主活動含む) 広報(イベント出店、市町報、フリーペーパー、ポスター等)
- ・ピア・サポーター向け情報提供(ニュースレター発行2回/年、研修情報発信、書籍配布など)

### 管理・連携

- ・派遣事業におけるピア・サポーターの名簿管理
- ・各関係機関・部署との関係構築(活動場所の開拓)

### 3. 他団体等との連携と課題

#### ✿ 連携している他団体

- 山形県がん診療連携協議会がん相談室部会  
部会やがんサロン派遣など、ピア・サポート事業に協力を得ている
- がん専門相談提携機関 ハローワーク、産業保健総合支援センター、薬剤性脱毛サポート美容師
- その他 講師派遣に関わる関連学会等、各市町村、薬剤師会、医師会、歯科医師会等

#### ✿ 連携を目指したい団体

- 県内のがん患者団体  
現状：ピア・サポーター養成講座案内のみ  
目標：相互交流を通して、顔の見える関係を構築したい  
県内患者会・がんサロンマップを作成しホームページに掲載したい
- 県内のがんピア・サポーター養成を行う他団体  
現状：開設当初以来、昨年度初めて視察を通して意見交換が実現  
目標：定期的な交流や協力、連携の可能性を共に考えられる関係を築きたい

# 4. ピア・サポート事業の振り返りと今後の課題

## ❀ ピア・サポート事業の振り返り

- 本委託事業開始から7年と歴史が浅く、職員の9割以上ががん医療未経験の団体であり、がん情報センター、行政、がん診療連携拠点病院等、多くの有識者の力に支えられ運用してきた。
- 多種多様な背景を持つピア・サポーターの意見が、活動の場の拡大や、研修内容の精錬に貢献してきた。
- 「ない」ことを理由にせず、「ある」ものを最大限活用し、一つずつ小さな目標の達成を繰り返した7年間だった。

## ❀ 今後の課題

- 7年間で築いたピア・サポーターの研修体制、活動内容を継続し、定期的に評価する必要がある。様々な形態でピア・サポーターの自主的な活動が増える中、支援のあり方について検討していく必要がある



## 5. ピア活動の充実・拡大に向けた提案 -試行錯誤の中から考える-

### 1) 養成講座以後のピア・サポーター体験の場を提供

- ・ 個々の性格や価値観、生きてきた過程によって、捉え方が異なる。
- ・ 養成講座の学びを 意図的に実践できる場を提供し、肯定的にフィードバックすることで、理解が深まる。↳ 研修として？サロンとして？

### 2) ピア・サポーターとがん専門相談員の連携（あるいは協働）

- ・ 気軽に語りあえる関係がピアの自主的な活動支援に大きく影響。
- ・ がん専門相談員とピア・サポーターの相互支援が活動拡大に発展。
- ・ 当センターでは、ピアの相談支援センター利用も多い。適度な距離で伴奏？

### 3) ピア・サポーター同士の交流の機会

- ・ 積極的に見えるピアでも、活動の中で不安や孤独を感じている。
- ・ ピア・サポーター同士の相互支援の効果は大きい。

都道府県の特徴を生かした取り組みが話し合えると、ピア研修は県、がんサロン運営支援は拠点病院などの役割分担、協働可能なことが見えてくるかもしれない。

# — 質疑応答 —

# 本日の内容

## 5. ピアサポーター養成と活躍の場創出に関する好事例共有

-基本計画・整備指針におけるピアサポーターの位置づけ

-山形県におけるピアサポーター養成と活躍の場の創出の取組

## 6. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業

## 7. その他

-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

## 8. 閉会の挨拶

-部会終了後-

希少がんセンターとがん相談支援センターの情報交換会（15：10～16：30）

# がん相談支援センター—相談員研修 および 国立がん研究センター—認定事業 について

1. NCC主催 相談員研修

2. NCC支援

地域主催 相談員研修  
メーリングリスト  
施設別がん登録件数検索システム

3. NCC認定事業

# NCCが提供する相談員研修

がん診療連携拠点病院等の  
整備について  
令和4年8月1日

- がん患者や家族等が持つ医療や療養等の課題に関して、病院を挙げて全人的な相談支援を行うこと。
- 相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、相談員研修等により定期的な知識の更新に努めること。

## 都道府県拠点の要件

基礎研修(1)(2)

基礎研修(3) 専従2人以上

指導者研修 少なくとも1人

## 地域拠点の要件

基礎研修(1)(2)

基礎研修(3) 専従1人  
専任1人

## その他

スキルアップ研修

- 情報支援

### ● 基礎研修(1)(2) Eラーニング、無料コース

※有料コースは、知識の定着を目指したテストあり

院内・外でご利用ください  
全科目を終了しないでOK

内容 ・ がん・がん対策・予防・検診・治療に関する基礎知識など

応募 ・ 申込 **2229人**↑ (内訳：テストなし 1297人↑、テストあり 932人↑、継続学習者664人↑)

### ● 基礎研修(3) オンライン2日間×4日程、事前学習+演習

国指定：無料、非拠点：有料

内容 ・ 相談員の基本姿勢、役割、コミュニケーションスキル、対象理解、連携など

応募 ・ 修了者：**331人** (内訳：国拠点275人、非拠点56人)

講師 ・ ファシリテーター48名、講師8名

国拠点を優先するため、国拠点以外の  
施設の希望者は受講できない可能性  
が高くなります

### ● 指導者研修 オンライン、前期2日間、後期2日間、事前学習+演習

受講料：有料

内容 ・ 前期：研修企画・運営・評価  
・ 後期：情報支援 (情報に基づく意思決定支援)

応募 ・ 修了者：**50人**、**20都府県** (内訳：都道府県拠点32%、地域拠点等68%)

# 地域開催 相談員向け研修の支援

がん診療連携拠点病院等の  
整備について  
令和4年8月1日

## 都道府県拠点の要件

当該都道府県の拠点病院等の  
相談支援に携わる者に対する  
継続的かつ系統的な研修を  
行う

## 地域拠点の要件

当該都道府県にある都道府県  
拠点病院が実施する相談支援  
に携わる者を対象とした研修  
を受講すること。

## ● 「相談対応の質保証を学ぶ（QA:Quality Assurance）研修」

定番化推奨

- 内容
- ・ 音声事例教材（1～11<sup>New!</sup>）を利用可
  - ・ 面談場面のビデオ教材も利用可
  - ・ 2時間の研修も可
  - ・ 詳細は、[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/qakyouzai.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/qakyouzai.html)

## ● 「情報から始まるがん相談支援」研修講師派遣事業

今年が最後  
今後は2時間版をご用意

- 内容
- ・ 「信頼できる医療情報を見極める力」「情報を理解、収集、整備する力」に焦点を当てた研修
  - ・ 詳細は、[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/training\\_tdfk/johoshien/entry\\_2023.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/training_tdfk/johoshien/entry_2023.html)

## ● 地域開催の研修企画コンサルテーション

いつでも、どうぞ

- 内容
- ・ 研修テーマの選定、構成、ワークのテーマなど、NCCがオンラインで相談に応じます。
  - ・ 詳細は、[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/kyoten/training\\_support/consult.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/kyoten/training_support/consult.html)

# 地域開催「情報から始まるがん相談支援」研修 講師派遣事業のご案内

講師派遣事業は、今年度で終了です

「信頼できる医療情報を見極める力」「情報を理解、収集、整備する力」に焦点を当てた研修です。  
がん情報サービスを活用して患者・家族等の意思決定を支援する力の向上を目指します。

研修年	都道府県（カッコ内は共同開催県）
2022年	高知県（愛媛県・徳島県・香川県）
	岡山県
	鳥取県（島根県）
	富山県
2023年	秋田県
	和歌山県
	香川県（徳島県）
	群馬県（埼玉県）
2024年	広島県
	福岡県
	愛媛県
	熊本県
	京都府
	青森県（山形県）
	鹿児島県

- 今後は、がん相談教育ネットワーク事業CCTNPのHPもご確認ください
- 地域開催をご支援する2時間版の教材提供を続けて参ります

- ・ インフォデミックの今、相談員個々がヘルスリテラシーを向上する必要があります。
- ・ ネットやSNSで非科学的な療法や健康食品などの情報が氾濫する中、情報を見極める視点を存分に学びます。
- ・ 患者向けガイドラインの活用可能性、施設内の情報整備の必要性も実感いただけます。

詳細はこちら

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/training\\_tdfk/johoshien/entry\\_2024.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/training_tdfk/johoshien/entry_2024.html)

# がん相談教育ネットワーク事業（CCTNP）2024年に実施の研修

研修名	開催日	日数	個人申込 受講料	都道府県申込 受講料	受講者数
CCTNP QA研修	6月29日（土）	半日	5,500	30名まで55,000円	101人 2都道府県申込
CCTNP 情報支援研修地域版	9月7日（土）	半日	5,500	15名まで33,000円	54人 1都道府県申込
CCTNP 相談員基礎演習	12月14～15日 （土・日）	2日	会員 13,200円 一般 24,200円	-	46人 11月12日時点

\* CCTNP：事業名の略称（Cancer Counseling Training Network Program）

\* QA：質保証の略語（Quality Assurance）

<https://www.phrf.jp/csp/csp-hor/cctnp>

## 協働団体

公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター  
 一般社団法人日本がん看護学会  
 公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会  
 一般社団法人日本がん相談研究会  
 国立研究開発法人国立がん研究センター

## 事業運営資金

「がん患者支援の推進に対する医療者への教育プロジェクト」  
 日本癌治療学会／ファイザー 公募型 医学教育プロジェクトの助成（2023年1月～2025年12月）



# メーリングリスト（ML）メンバー情報 定期更新のお願い

MLのメンバー情報は、「MLメンバー登録・変更システム」上で登録します。  
病院を代表し、システム上で情報入力をする方＝事務連絡統括担当者（以下、事務統括）が決まっています。

以下の手順で、定期的な情報更新をお願いします。

1. 事務統括に連絡し、現在の登録内容を確認する
2. 変更がある場合、登録したい内容（担当者氏名とメールアドレス）を更新して、事務統括に渡す
3. 事務統括がシステム上で最新情報を登録する

■ **がん診療連携拠点病院がん相談支援センターML** : [kyoten-CISC@ml-cis.ncc.go.jp](mailto:kyoten-CISC@ml-cis.ncc.go.jp)

国指定拠点病院の相談員が加入するMLです。 **全ての拠点病院で入力が必要です。**

■ **情報提供・相談支援部会委員ML** : [Joho\\_Sodan\\_Bukai@ml-cis.ncc.go.jp](mailto:Joho_Sodan_Bukai@ml-cis.ncc.go.jp)

・情報提供・相談支援部会の委員（実務者、責任者、その他責任者、計3名まで）が加入するMLです。

・ **都道府県拠点病院が情報を集約し、入力します。地域拠点病院での入力は不要です。**

・ **実務者、責任者は都道府県拠点所属者に限ります。**（その他責任者は都道府県拠点以外所属者も可）

■ **都道府県がん相談員研修連絡担当者ML** : [nintei-pref@ml-cis.ncc.go.jp](mailto:nintei-pref@ml-cis.ncc.go.jp)

・都道府県で実施するがん相談員研修の企画担当者（主、副、計2名）が加入するMLです。

・ **都道府県拠点病院が情報を集約し、入力します。地域拠点病院での入力は不要です。**（都道府県拠点が2つある県は1施設が代表して入力）

・ **主担当者は都道府県拠点所属者に限ります。**（副担当者は都道府県拠点以外所属者も可）

# 施設別がん登録件数検索システム

- 院内がん登録のデータを用いて、**症例数**を**施設別**に検索
- **希少がん**を含む**全てのがん種**で利用可
- システム導入施設 ※すべて相談支援センター内
  - 都道府県がん診療連携拠点病院（47都道府県）
  - 一部の地域がん診療連携拠点病院（11施設）
  - 国立がん研究センター（3施設）

詳細は [https://ganjoho.jp/public/institution/consultation/cisc/hospital\\_search.html](https://ganjoho.jp/public/institution/consultation/cisc/hospital_search.html)

- 2023年7月にリニューアル
- 講義資料および説明動画はこちら  
[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/kyoten/tool/serch\\_system.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/kyoten/tool/serch_system.html)  
ID : kyoten PW:cisc

- ✓ 数が多いほうがよい、と推奨するためのシステムではない
- ✓ 部位だけでなく、組織型の性質別に検索可
- ✓ セカンドオピニオン先の紹介だけでなく、現在の施設（担当医）との関係強化に活用可

結果参照

検索条件  
【診断年】：2019年、【部位】：喉頭、【性状コード】：2:上皮下内癌、3:悪性  
【都道府県】：関東甲信越すべて  
【症例区分】：診断・治療共に自施設(2)、他施設診断・自施設治療(3)

注1：検索対象とは院内がん登録全国集計に含まれているがん診療連携拠点病院です。年によって施設が異なります。（→件数が同じ場合には、真番号順に（基本的に北から）表示されます。  
注2：検索で当たったときには、国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービスサポートセンター 0570-02

対象件数：20/152件

病院名	症例数	都道府県	市
	58	埼玉	
	56	東京	
	48	千葉	
	38	神奈川	
	36	東京	
	36	東京	
	34	東京	

# 症例件数に関する情報公開

NEW !

## ・院内がん登録全国集計結果閲覧システム

院内がん登録全国集計（報告書）をシステム化して見やすくしたものの報告書上で集計されている部位もしくはがん種について検索可能

がん情報サービスTOP> がん登録> 院内がん登録全国集計結果閲覧システム  
<https://jhcr-cs.ganjoho.jp/hbcrtables/>

検索内容の選択

①部位別登録数 (全登録例)  
・部位ごとに、性別、年齢階級、発見経緯等の診断情報の検索が可能  
・全登録例の検索が可能（但し、セカンドオピニオン等は除く）  
（2018年例から検索可）

②がん種別登録数 (病期や治療方法等/初回治療開始例)  
・がん種ごとに、病期や治療方法等の詳細な腫瘍情報の検索が可能  
・自施設で当該腫瘍の初回治療を開始した例が対象  
・各部位に発生した主に上皮性のがん（癌腫）を対象に集計しています

※必須項目には「\*」マークを付け

1. 部位\* 部位：[全部位] 上皮内がん等を含む  浸潤癌（悪性新生物<腫瘍>）のみ に限定する場合は▼

2. 症例区分\*  全登録例（セカンドオピニオン等除く）  初回治療開始例

3. 施設\*  
※都道府県を選び、施設リストから検索したい対象施設を選んでください。

都道府県：[全都道府県] 施設名絞り込み：[施設名] [施設リスト検索]

施設リスト  
JCHO札幌北病院  
JCHO北海道病院  
JR札幌病院  
KKR札幌医療センター  
NTT東日本札幌病院  
旭川医科大学病院  
旭川医療センター  
旭川厚生病院  
旭川高十字病院

検索対象施設\*

追加 >  
全施設追加 >>  
削除 <

「部位別」検索画面

## ・病名から病院を探す

「病名」を選択し検索すると、現況報告書の別紙2で提出された治療件数を見ることができる

がん情報サービスTOP> 病名から病院を探す> 病名を選択  
<https://hospdb.ganjoho.jp/kyoten/cancerkyotensearch>

病名から病院を探す

検索条件

病名（がんの種類） 非小細胞肺癌

地域 東京都

1から探す

療法	初回治療件数
がんゲノム医療中核拠点病院 国立がん研究センター中央病院	893
地域がん診療連携拠点病院 地域の小児がん診療を行う連携病院 がんゲノム医療連携病院 聖路加国際病院	126
地域がん診療連携拠点病院 がんゲノム医療連携病院 虎の門病院	261
地域がん診療連携拠点病院	

検索結果画面

# 認定がん専門相談員



2024年4月現在 認定者数：391名

## 目的

国際がん情報サービスグループ（ICISG）が示す“Core Values”等の基本姿勢を遵守し、相談対応に必要な知識・情報を更新して継続的に学習する相談員を認定し、自己研鑽を支援する

\* 申請・更新（3年毎）に必要な単位

I	II	III	IV	V
E-learningの受講 (32科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎研修（3）修了</li> <li>情報支援研修修了（更新）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県主催の相談員研修受講</li> <li>研修の講師・ファシリテーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学会・勉強会の参加</li> <li>研修の講師・ファシリテーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の相談対応モニタリング</li> </ul>

## 効果

- 継続的な学習機会の確保
- 相談員としての自信

## 要望

- 認定相談員同士の交流**
- 認定相談員のみを対象としたWeb研修
- 拠点の指定要件に必須になるとよい
- 診療報酬の加算対象にして欲しい
- 機能強化事業費で申請・更新料を出して欲しい

## 課題

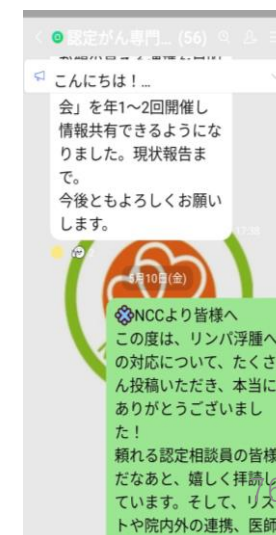
- 認定取得の意義・メリットが曖昧**
- 認定をもたない相談員との相違が不明**



認定相談員の交流、情報交換を目的に  
**LINEオープンチャットが稼働**



登録者：70名



# 認定がん相談支援センター



認定がん相談支援センター

2024年4月現在 認定施設：32施設

## 目的

相談支援の質を維持・向上に努めているか、相談対応を振り返り評価・改善に取り組んでいるかなど、一定の基準を満たした施設を「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」として認定し、体制整備を促進する

## \* 申請に必要な取り組み

マニュアル作成	部門内モニタリング 定期開催	情報源リストの作成	勉強会・事例検討会 の定期開催	院内の支援体制
具体的で活用性が高く、 掘りどころになるようなマ ニュアルの作成	相談の質保証、質の維 持・向上に向け、実際の 相談の録音をもとに課題 や改善策を話し合う事例 検討会の開催	<ul style="list-style-type: none"><li>がんの診療ガイドライン の解説や書籍の整備・ 更新</li><li>Webを含む各情報源 に対する信頼性評価</li></ul>	相談員のための勉強会・ 事例検討会の開催	患者、家族支援のための 院内連携などの取り組み

## 効果

- マニュアルの充実、活用可能性の高いものにできた
- 相談員が情報提供する範囲、留意点について合意形成できた
- 整備すべき事項に気づき、新たなルール作りに着手できた
- 質の高い情報整備は、相談対応の質の向上に直結する実感した

## 課題

- 情報整備の更新が大変

## 認定センター同士の交流会（オンラインサロン）

次回：第10回認定サロン 11/15（金）

テーマ：各施設および県でのフィードバック体制



# 申請受付期間

2025年度認定がん専門相談員



2024年**11月1日**～**12月9日**

お待ちしております

2024年度認定がん相談支援センター



認定がん相談支援センター

2024年4月1日～5月31日

詳細は募集要項をご参照ください。

国立がん研究センター> がん対策研究所> プロジェクト> がん情報提供部

国立がん研究センター「認定がん専門相談員」および「認定がん相談支援センター」認定事業

<https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/certification/index.html>



# 本日の内容

## 5. ピアサポーター養成と活躍の場創出に関する好事例共有

-基本計画・整備指針におけるピアサポーターの位置づけ

-山形県におけるピアサポーター養成と活躍の場の創出の取組

## 6. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業

## 7. その他

-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

## 8. 閉会の挨拶

-部会終了後-

希少がんセンターとがん相談支援センターの情報交換会（15：10～16：30）

# 連絡事項

## ■ 第24回情報提供・相談支援部会

日時：**2025年5月30日（金）13:30~16:30（予定）**

**5年ぶりの集合開催となります**

お問い合わせ先

情報提供・相談支援部会事務局

■ mail: [joho\\_sodan\\_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp](mailto:joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp)